

Lecture 授業No.104 教科書P.160

T.Q.「19世紀前半の 英の自由主義改革とは？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校
地歴公民科教諭

直前予習 T. A. キーワード確認

教科書 P.160

T.Q. 「19世紀前半の英の自由主義改革とは？」

1. 審査法
2. 選挙法改正
3. 人民憲章
4. チャーティスト運動
5. 穀物法
6. 航海法

クリックで全て



今日の授業ラインナップ。

1. ウィーン体制を崩し始めた
フランス七月革命の成功
2. 七月革命の影響
3. イギリスの自由主義改革

③ 自由主義運動 その2

(1) **七月革命** (仏 1830) T.Q. 「19世紀前半の英の自由主義改革とは？」

教科書P.160

1 **ルイ18世**__ブルボン朝の復古王政

2 **シャルル10世**

内:反動政治

外:1830、**アルジェリア出兵** for 国民の不満を外にそらす
→七月勅令...議会と言論を弾圧 ∴王は追放 ※1

3 **七月王政** (オルレアン朝)...**ルイ=フィリップ**を王に

(2) 影響

成功:a **ベルギー独立** (1830 オランダから。ロンドン会議で)

b 英で選挙法改正 ※2

c **ドイツ関税同盟** (1833・34)

失敗:d **ポーランド独立運動** (1830~31 反ロシア)

e **ドイツ・イタリアの自由主義運動** ※3①②

1/2枚目のスライドはここまで!

失敗:d **ポーランド独立運動**(1830~31 反ロシア)
e **ドイツ・イタリアの自由主義運動**

————— **ここから**

T.Q.「19世紀前半の英の自由主義改革とは？」

教科書P.160

④ 英の自由主義改革

宗:**審査法廃止**(1828)→**カトリック教徒解放法**(29)

政:**第1回選挙法改正**(1832)

…ブルジョワに拡大。**腐敗選挙区の廃止** ※4

∵1票が軽すぎ

経:1 東インド会社の**インド貿易独占権廃止**(1813)

cf. インドでの**商業活動停止**(1833)

2 **穀物法廃止**(1846)

…小麦の輸入自由化で工業製品輸出増

∵地主保護からブルジョワ(と労)の保護に政策変更

cf. コブデンとブライトの努力 ※5※T. A. まとめスライドへ

3 **航海法廃止**(1849)

最後のスライドはここまで!



クリック①:ブルジョワ代表

クリック②:労働者代表

クリック③:合衆国の自由の女神像

(米建国100周年記念で仏が贈った)

ドラクロワの見た革命運動

ウィーン体制下の革命運動は、芸術家たちの創作に大きな影響をおよぼした。フランスの画家ドラクロワは、オスマン帝国によるギリシア人虐殺事件を「キオス島の虐殺」として描き、ギリシアの救援を訴えた。1830年パリで七月革命が起きると、彼自身は戦闘に参加しなかったものの、民衆側に共感を抱き、その勝利を祝って「民衆を導く自由の女神」を描いた。三色旗を掲げ、銃を手にした女神の左手のシルクハットをかぶった人物は革命に参加したブルジョワの代表、その左のサーベルを振りかざす人物はパリの労働者の代表として描かれている。この絵を見たハイネは「七月革命の真の姿を感知する」と記した。



ネーデルラント(今のオランダとベルギー)の歴史

クリック①: スペイン領からオーストリア領に「戻った」

南ネーデルラント

※2

クリック②: 1815年 = ウィーン議定書で、**オランダ立憲王国** 成立

クリック③: 1830年 = **ベルギー王国**がオランダから独立



「ピアノの詩人」 1810～49 ショパン

※3①NEXT

ショパンは、20歳のときに祖国ポーランドを離れ、パリに向かった。彼は、七月革命の影響でおきた祖国の独立運動がロシア軍に弾圧された悲報を聞いて、エチュード「革命」を作曲した。彼はその後、祖国に戻ることはなかったが、マズルカやポロネーズなど、ポーランド民族音楽を作曲しつづけた。



↑パリ・ポーランド図書館蔵

クリックで、ドラクワ(三回目！)が描いたショパンの肖像→



※3②BACK 「革命のエチュード」

1 エチュード「革命」



(1分29秒)

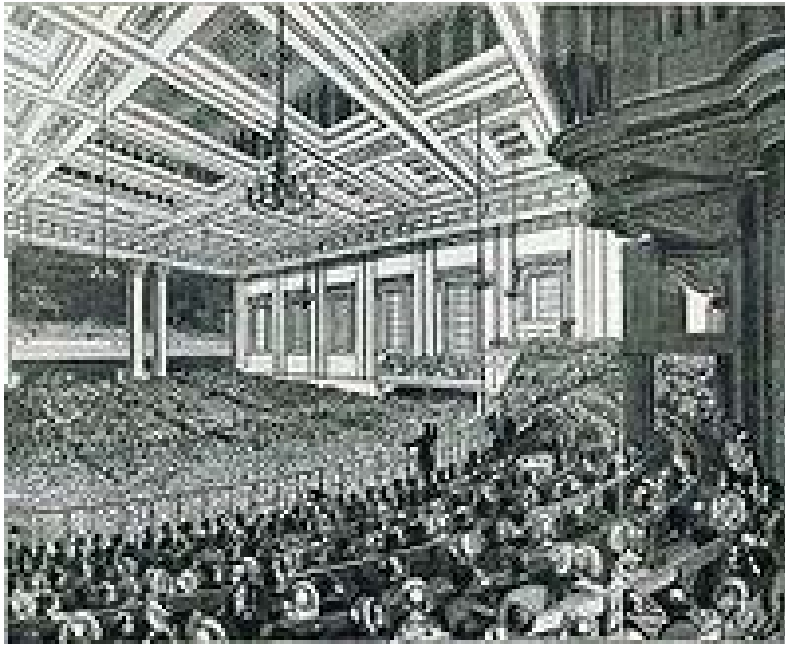
ショパンは1830年末ウィーンに演奏旅行に出発した。ウィーン滞在中の1830年11月29日、西欧革命運動に対するロシアの軍事干渉にポーランド軍が利用される計画を察知して軍隊とワルシャワ市民が協力して蜂起し（十一月蜂起）、ロシア軍をいったん撤退させて臨時政府を樹立した。この知らせを聞いたショパンは革命運動に参加することも考えたが、健康上の理由と芸術家としての使命を考慮して帰国しなかった。この武力蜂起は1831年9月8日、反撃に転じたロシア軍によってワルシャワは占領され、武力蜂起は完全に鎮圧された。ウィーンからパリへの演奏旅行途上、このワルシャワ陥落の知らせを聞いた彼は、絶望と怒りを込めてこの曲を作曲したといわれ、ショパンには珍しい激しいパッセージで知られている。しかしこのエピソードには確実な根拠がない。ただショパン自身は二度と祖国の土を踏むことはなかった。エチュード（練習曲）第12番ハ短調が正式な名称。

イギリスの選挙法改正

※4

クリックで、改正前と第1回改正後の、有権者パーセンテージの比較

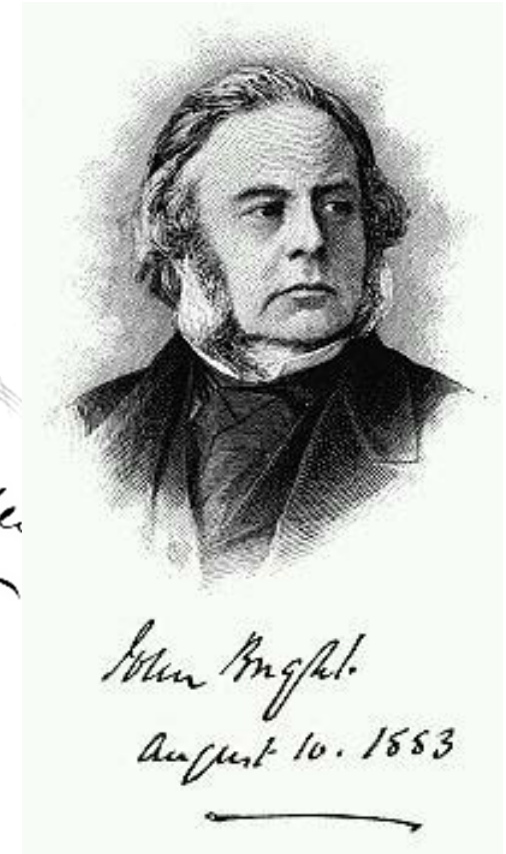
	内閣(政党)	要 点	有権者国民比
改正前		貴族, 上層市民, 一部の中産者に参政権	3%
第1回 (1832)	グレー (ホイッグ党)	産業資本家, 都市・農村の中産者に参政権。腐敗選挙区 <small>ぶはい</small> の廃止(144議席再配分)	4.5%
第2回 (1867)	ダービー (保守党)	小市民, 都市労働者に参政権 選挙区改正(46議席再配分)	9%
第3回 (1884)	グラッドストーン (自由党)	農村・鉱山労働者に参政権 小選挙区制採用, 秘密投票制確立	19%
第4回 (1918)	ロイド=ジョージ (自由党)	男性普通選挙権: 21歳以上 女性普通選挙権: 30歳以上	46%
第5回 (1928)	ボールドウィン (保守党)	21歳以上の男女普通選挙権	62%
第6回 (1969)	ウィルソン (労働党)	18歳以上の男女普通選挙権	71%



1846年に開かれた
反穀物法同盟の集会



クリックで、
コブデンとブライト



労働者の「穀物法反対！」理由:

∵ 穀物価格の高騰により、生活苦

資本家(経営者)の「穀物法反対！」理由:

労働者に支払う賃金の上昇が、製品価格を高騰させ、
売り上げを下げて利益が減少

※5

Lecture 授業No.104

T.Q.「19世紀前半の英の自由主義改革とは？」

1828年に審査法が廃止された翌年カトリック教徒解放法が成立し、宗教に関係なく公職に就けるようになった。また第1回選挙法改正で選挙資格が資本家(ブルジョワ)に拡大されるとともに腐敗選挙区が廃止された。経済面ではそれまで地主を保護していた穀物法の廃止で小麦の輸入が自由化され、航海法も廃止されて資本家の求める自由貿易が実現した。